

○報告

- (1) 令和3年度事業の主な取り組みの進捗状況  
→事務局側より説明（資料2, 3）
- (2) 療育手帳の取り扱いの変更  
→事務局側より説明（資料4）
- (3) 令和2年度神戸市における障害者虐待の状況および対応  
→事務局側より説明（資料5）
- (4) 福祉乗車証（IC）の交付10年経過にかかる更新スケジュール  
→事務局側より説明（資料6）
- (5) 神戸市療育ネットワーク会議からの報告  
→事務局側より説明（資料7）
- (6) 令和3年度障がい理解の促進にかかる取り組み  
→事務局側より説明（資料8）
- (7) 第2期神戸市バリアフリー基本構想の策定  
→事務局側より説明（資料9）
- (8) 神戸市重度障害者等就労支援特別事業（地域生活支援事業）の開始  
→事務局側より説明（資料10）
- (9) 神戸市における要配慮者への新型コロナウイルスワクチン接種  
→事務局側より説明（資料11）

○主な意見

- ・計画支援相談体制の強化が課題であるが、抜本的に相談支援専門員数を増やさねば今の問題点の解決にはならない。
- ・相談支援専門員の報酬増について国要望等に努めてほしい。
- ・ヤングケアラーの子どもたちは自ら声を上げにくいのが実態であり、学校での気づきが重要である。そのためにも子どもたちへの啓発やスクールソーシャルワーカーを初めとした専門職の配置を進めることが大事である。
- ・療育部門については、全学級で障がいの有無に関係なく当たり前のように暮らしていけるようなインクルーシブ教育の推進を議論してほしい。
- ・マンションでのグループホーム運営に管理規約違反との地裁判決が出た。神戸市を含め集合住宅に設置のグループホームは全国的にも多く、裁判の影響が出ないように注視してほしい。
- ・障害者支援区分の認定調査、調査員の質に不安を感じる。今後、スキルアップなどを考慮してほしい。
- ・障害者の方が就職しても定着しないケースが多々ある、障害特性に配慮した対応検討を行ってほしい。
- ・虐待の通報が増えているが認定は例年と大きく変わらない。感度が上がっていることは良いことだが、虐待認定に至らずとも見守りが必要なケースが増えているのではないかと。